

事業所における自己評価総括表

(別紙3)

○事業所名	公益財団法人東京カリタスの家 子どもの家エラン		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 16日		2026年 2月 4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	勉強会・懇談会など、保護者への情報提供の機会を多く持っていること	保護者がお子さんのことをより理解してお家で関わられるように、またこの先お子さんがたどる道筋についての見通しを持てるように、通園クラスでは保護者勉強会か懇親会を月に一度実施しました。昨年からは各家庭で工夫していることを発表していただく勉強会は、好評により本年は2回実施しました。特別支援学校や特別支援学級、特別支援教室など、就学の選択肢や手続きについて具体的なお話を聞ける貴重な機会として卒園児の保護者を招いての勉強会も実施しています。また、お父さん向けに講師を招いての勉強会を土曜日に実施し、こちらもご好評をいただいています。区主催の保護者向け勉強会など、利用者の方に役立つような外部研修の情報をお手紙やLINEで周知しています。	引き続き、保護者勉強会と懇談会、お父さん会の実施を行うとともに、今年度実施を予定していながら開催が叶わなかった、保護者同士で話し合いながら子育ての中でのホーム上手を目指す「ペアレントプログラム」も次年度は実施したいと考えています。
2	保護者同士の交流の機会の設定	保護者懇談会か保護者勉強会を月に一度実施しています。ほかの家庭での子育ての工夫について知り、気軽に子育てについて話せる場となっているように思います。なかなか集まって悩みや考えを話す機会のない父親向けに、お父さん勉強会を開催しています。在園卒園の垣根や通園通所の垣根を越え、保護者同士が情報交換ができる機会として、月に1回の園庭開放や、卒園児保護者も交えた勉強会、ホームカミングデイ等のイベントを実施しています。仲間づくりのできる場所、そして卒園してもつながっていただける場所になりたいと考えています。	保護者の意見を取り入れながら、現在の支援を継続していきたいと考えています。
3	児童発達支援計画の内容と実際の支援の充実	お子さんの日常でのご様子と保護者のニーズをもとに、お子さん一人一人に合わせて支援を組み立て、具体的な目標と支援方法を明記することで、場面が変わっても取り入れやすい支援内容を保護者にお伝えできるよう心がけています。また、事業所内での支援場面でも、お子さんが様々な経験ができるよう、一人一人の能力や興味関心に合わせたプログラムを工夫しています。	支援計画の内容決定にはすべての職員がかかわっていますが、文書として作成することが属人化しがちであるため、より作成しやすくなるよう、様々なツールを導入するとともに、職員教育にも力を入れてまいります。支援も同様に、職員一人一人の支援知識と技術の向上に努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の確保	職場や仕事内容について、事業所独自の魅力を求職者さまにうまく伝えることができず、昨年度職員が抜けた穴を年度末まで埋めることができないままの一年となりました。	募集方法などを見直し、幸い2026年度は人員に余裕を持った運営ができる見通しです。引き続き、ご利用の方にも職員にも魅力的な環境となるよう、運営面での改善を実施していきます。
2	支援計画を作成したのちの、保護者説明の時期の遅れ	計画を作成したのち、説明を行う日程を保護者とうまく調整できていなかったケースがあり、結果、保護者説明の時期が遅れてしまうことがありました。	ご説明の日程を計画的にスケジュールリングすること、またモニタリングの時期や計画説明の時期を表にし、保護者と確認することで遅れがないようにしていきます。